

第5回小郡市幼児施設審議会議事録

日 時	令和7年7月24日（木）14：00～15：35
場 所	小郡市総合保健福祉センターあすてらす 2階 会議室
出席者	<p><委員></p> <p>副会長：和田委員</p> <p>委員：山下委員、大淵委員、酒村委員、梶原委員、秋本委員、中川委員、林委員</p> <p><事務局職員></p> <p>林子ども・健康部長兼こども家庭支援課長、成富保育所・幼稚園課長、鹿毛保育支援係長、砂田御原保育所所長、内田大崎保育所所長、今井こども家庭支援課参事、永野こども家庭係企画主査</p> <p><傍聴者>なし</p>
資 料	<p>第5回小郡市幼児施設審議会次第</p> <p>資料1 市内子育て支援センター一覧</p> <p>資料2-1 令和6年度つどいの広場ぽかぽかの実施状況</p> <p>資料2-2 小郡市つどいの広場ぽかぽかりフレット</p> <p>資料3-1 2024年度小郡市子育て支援センター支援事業の実施状況</p> <p>資料3-2 小郡市子育て支援センターではこんなことしています！</p> <p>資料4 地域子育て支援拠点事業実施要綱</p>
会議内容（要旨抜粋）	
1 開会あいさつ（和田副会長）	
<p>2 審議</p> <p>（1）子育て支援センターのあり方について</p> <p>事務局より説明</p> <p>・質疑応答、意見交換</p> <p>《委員》延べ人数での資料提供だが、実人数はどのくらいか。</p> <p>《事務局》おおよそ延べ人数の半数である。</p> <p>《委員》子育て支援センターで実施している一時預かりについて、利用ニーズに応じた対応ができているのか。利用ニーズに対して断っている状況はあるのか。</p> <p>《事務局》説明資料のように一定の利用ニーズある。緊急を要する人に対しては、電話で聞き取るなど臨機応変に対応している。利用申込に対して職員数に応じて対応しているため、職員数が不足する場合は断ることがある。</p> <p>《委員》利用者はリピーターと新規はどちらが多い傾向にあるか。</p> <p>《事務局》小郡市子育て支援センターでは、リピーターと転入者の利用傾向が高い。また、つ</p>	

どいの広場では、小郡市子育て支援センターと同じ傾向である。

《委員》子育て支援センターは市内に5か所あるが、施設数は足りているという認識か。

《事務局》市のシミュレーションでは、令和7年度以降の5年間について保育ニーズは増えるが、市内全体の児童数は減少していく状況下で、子育て支援センターの利用ニーズは微減していくと見込んでいる。そのような中で、施設数については、令和8年度に1か所新設を予定し、5か所と合わせた計6か所にて子育て支援センターの利用ニーズを満たすと考えている。

《委員》現在5か所の子育て支援センターは常時開設なのか。

《事務局》5か所とも拠点型となっているため、すべて常設となる。出張型を兼ねているのが、小郡市子育て支援センター、つどいの広場、味坂保育園子育て支援センターの3か所である。

《委員》小郡市子育て支援センターの預かり保育について、一時預かり保育のニーズに対し、受け皿が足りないという認識なのか。

《事務局》市内では、一時預かり保育事業を市内3か所実施している。一時預かり保育ニーズに対しては、その3か所で受け皿を確保している。小郡市子育て支援センターについては、主に配慮のいる家庭との相談の中での活用を想定しているため、受け入れの対象者が異なっている。

《委員》講演会も開催しているが、周知は行き届いているのか。

《事務局》周知については、講演会に限らず全体的に必要なものと認識している。周知が行き届いていないことにより、正確なニーズを把握できていない可能性があるため、今後もHP、SNS等の周知について注力していく必要がある。

《委員》本事業に従事している公設の職員数を教えてほしい。

《事務局》つどいの広場は、会計年度任用職員（月額）3名・会計年度任用職員（日額）3名の計6名、小郡市子育て支援センターも、会計年度任用職員（月額）3名・会計年度任用職員（日額）3名の計6名である。

《委員》子育て支援センターは、子育ての困りに対して対応するようなものと認識しているが、現在のチラシでは、遊び場であるという情報提供しか記載がないため、チラシ等にも同内容を盛り込んだ方がいいのではないか。また、高齢者のための地域包括支援センターは各拠点について知っていたが、子育て支援センターの各拠点については知らなかったため、より周知した方がいいのではないか。

《事務局》チラシについては、今後修正する。また子育て支援センターに関する周知については、今後、より注力していく。

《委員》議題は子育て支援センターのあり方なので、今後の展望を見据えないといけない。どのようなあり方を考えていくかを議論したほうがいいのではないか。そのためには、利用ニーズを正確に把握する必要がある。また、今後の発展方法として高齢者の事業と共同で行うなどが考えられるのではないか。

《委員》気軽に子育て支援センターに足を運んでもらうために、出張ひろばの場所を、駅付近など電車沿線を活用した方がいいのではないか。

《委員》乳幼児健診を活用して周知した方がいいのではないか。

《委員》市内保育所もこどもたちの駆け込み寺の位置づけとして、子育て支援センターと連携し、取り組んだ方がいいのではないか。

《委員》子育て支援センターのイベントを共働き世帯などが参加しやすいように、休日開催を増やした方がいいのではないか。

3 その他

《事務局》次回の会議日程等を事務局より説明。

4 閉会のあいさつ（副会長）